

陳述書

東京地方検察庁 特捜部直告班
ご担当者 殿

平成23年7月8日

告発人 明石 昇二郎 印

告 発 人	氏 名	明石 昇二郎
	住 所	
	職 業	文筆業
	生年月日	
	電 話	

私 告発人 明石昇二郎（以下「告発人明石」という）及び同 広瀬隆（以下「告発人広瀬」という）の共著書のタイトルは『原発の闇を暴く』（集英社刊）（書証1）という。

共著者である告発人広瀬と私は、原発のさらなる「闇」の部分を探る必要を痛感したため、東京電力の幹部や御用学者たちを刑事告発し、司直の手に委ねることを決意した。ぜひ、あらゆる法令を駆使し、徹底的に責任追及をしていただきたいと思う。

同書の第一章や告発状でも触れたように、福島第1原発事故の発生により、入院中だった病院からの避難を強いられ、避難中や避難後に死亡した一般住民が多数いる。彼らは皆、東日本大震災が「原発震災」とならず済めば、そもそも死ぬことはなかった人たちである。

原発事故さえなければ、津波に襲われた岩手県や宮城県などの他地域と同様に、原発近隣でも命を救われた被災者もきっと多かったことだろう。自然環境に膨大な放射能をバラまく重大事故を引き起こし、人命救助を阻んだ東京電力の罪は重い。また、そうした重大事故を未然に防ぐことのできなかつた原子力安全・保安院や原子力安全委員会も、その責任と無縁ではありえない。

また、被告発人の欄に名を連ねるべき原発事故の責任者として、東京電力会長、社長のほか、別紙「当事者目録」に挙げた方々が該当するだろうと考えている。

告発状と別紙「当事者目録」で名前を挙げた者はすべて例外なく、原発利権の恩恵を被ってきた者たちである。そんな彼らの刑事責任を問うことで、悲劇と惨劇を招いた関係者らの罪と悪事を白日の下に晒し、同じ過ちを二度と繰り返さぬようにしなければならない。原発事故による被害者が泣き寝入りすることなく、法に基づく正義が実行されることを強く望む。